
すれいやーず

水守中也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
すれいやーず

【Nコード】
N1369M

【作者名】
水守中也

【あらすじ】
『スレイヤーズ』の二次創作です。

悪人に人権はない。

ちよつと、今眉をひそめた、そのキミ。考えてもらいたい。

そもそも人権を守らないから、彼らは「悪人」なのだ。守らない相手に、こちらが守ってやる必要はあるだろうか（いや、ない）。

キミだって、ナイフを持って脅してくる相手の身を案じることはできないだろう。

ましてや、ナイフどころか三月刀シミターを掲げた人相の悪い男三人が取り囲んでいるのは、可憐な美少女が一人。

もつどつちが悪人かなど、言う必要はないだろう。

だから、ちよつとばかり抵抗して悪人どもを怪我させてしまつても、正当防衛なのだ。

「つて、これが正当防衛かあああつ！」

「ほらほら。ちゃんと叫べるだけ元気じゃない　ちゃんと手加減してあげたんだから」

あたしはひらひらと手を振ると、これで話はおしまいとばかりに背を向けた。

普段なら身ぐるみを剥ぐところだけど、今は懐具合もあつたかいし、機嫌がいいので見逃してやる。

「おいおい、あれつてもしかして、リナ・インバースじゃないのか？」

「ええつつ？　あの、ドラゴンもまたいで通る『どらまたリナ』か」

「ああ、その証拠にあの薄い胸——」

ぷちん！
メガ・ブランド
「爆裂陣っ！」

ちゅどーん。土つぶてとともに男たちが巻き上がった。

白目をむいてぴくぴく痙攣している彼らの元に、あたしはゆつくりと歩み寄った。

さあて、没収没収♪

「へえー。これはこれは、大したお出迎えねー」

お日様ぼかぼか照る下、ニギタケ目当てに街道から少し離れた道を歩いていたら、出るわ出るわと盗賊たち。

もちろん、魔道士にして戦士たるあたし、天才リナ・インバース様。

やつらの気配は感じ取っていた（害はないので放っておいた）んだけど、これほどの人数がいるとは思わなかったぞ……

さてどうするか。ここは翔封界でいったんこの場から離れて、距離をかせいでから、大技一発……うーん、それじゃあまり見栄えがしないかなー

そんなことを考えていると、盗賊たちの間から、一人の男が歩み出てきた。角刈り頭に小太りの男。なるほど、こいつがまとめ役つてわけね。

歩き方を見る限り、腕はそう悪くない。知恵も働きそうである。このまま、ブチ倒してもいいんだけど、まずは相手の出方をうかがうとしようか。

「貴様が、リナ・インバースだな？」

「ええ」

男は立ち止まると、良く通る大声で叫んだ。

「私の名は、ツドム・UESAー。労働組合の組合長をしている！
！」

ずべつ。

あたしは思わずすっこけてしまった。

「労働組合って、盗賊の？」

「当然だ」

「てことは、この後ろにぞろぞろいる連中は……」

「団体交渉である！」

あたしは頭を抱えた。痛むのはずっとこけたときにぶつけたからだ
じゃない。

「それは十年前のことだった……」

おいおい、いきなり昔語りを始めちゃったよ。

ファイヤーボール

火炎球をぶちかまして、黙らせてやりたいけど、正直ほんの少し
ぐらい興味もあつたので、大人しく話を聞く。

「ガキの頃から口だけはうまかった俺は、来る日も来る日も詐欺で
身を立っていたんだ」

ほうほう。

「ところが雪の降る寒い夜のことだった。結婚詐欺が失敗して、そ
の女の友人とかいう男が殴りこんできたのだ。奴は俺の言葉に耳を
貸さずにいきなり殴りかかってきた。俺は必死に抵抗した俺だって
痛いのはやだ」

修羅場ね！。ま、自業自得よね。

「——で、勝った。どうやらもともとがたいが良かったせいか、喧
嘩も強かったみたいだ」

……おい。

背後で組合員（？）たちが騒ぎ立てる。

「さすがです兄貴、一生ついていきます！」

「はっはっは」

「——で、それでが何で労働組合なんてやってるわけ？」

「なに、簡単なことだ」

ツトムは胸を張って答えた。

「盗賊業は世間が思っているより厳しいのだ」
ほうほう。

「毎日汗水流して、歩いて、見つけた獲物がリナ・インバース。毎
日毎日アジトで腹をすかして待っている子分たちに、なにも収穫が

なくて帰るときの、むなしさ」

仕事しろよ。その子分。

「その一方で無茶苦茶なノルマを設定する親分。この職業の離職率の高さは異常である！」

いいことだと思うぞ。

「そこで俺は、この劣悪な労働状況を改善するため、労働組合を立ち上げたのだ」

「さすがです兄貴、一生ついてきます！」

「はっはっは」

……なるほど。

少々口達者な元詐欺師の盗賊が、口八丁で盗賊たちをまとめたつてところか。

「で、なんであたしのところに来たの？ 組合つてのは、経営者に文句を言うんでしょ」

「そりゃ、リナ・インバースは、俺たちの業界の不況の元凶だし…

…」

ツドムは周りの盗賊たちを見回して言った。

「あるいみ、俺たちの親分みたいな存在だから……？」

「なんじゃそりゃあああ！！」

こうして盗賊労働組合とやらはほろんだ。

悪人に人権はないのだから。問題ない。

ツドムたちから巻き上げたお金で、あたしは宿屋でニギタケ料理に舌鼓を打っていた。

めでたしめでたし。

（後書き）

近頃の若いもん（そんな年でもないですが）は、もしかして、スレ
イヤーズの小説を知らないのかなーと思いつつ書きました。

どうなのでしょう？

近頃、ライトノベルは読んでいないのでいまいち分かりません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1369m/>

すれいやーず

2010年10月21日21時30分発行